

歴史まち歩き

2

東海道 笠寺

コース【名鉄本笠寺駅▶名鉄本笠寺駅】

玉照姫のシンデレラストーリーと 武蔵の足跡が残るまち

雨ざらしの観音様に笠をかぶせた娘・玉照姫。心優しい玉照姫は藤原兼平に見初められ、玉の輿に乗ったという伝説が伝わる笠寺観音は、縁結びの場所として知られています。

このまちには、宮本武蔵が立ち寄ったと伝えられるお寺もあり、市内唯一の原型を留める「笠寺一里塚」も、東海道を行き交う旅人の目印として、重要な役割を果たしました。弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が発見された見晴台も、このまちのシンボルとなっています。

① 笠寺観音(かさでらかんのん)

天林山笠覆寺(てんりんざんりゅうふくじ)といい、真義真言宗智山派に属する尾張四観音の一つ。
聖武天皇の天平5年(733年)、呼続浜に流れ着いた霊木に禅光上人が十一面観音を刻み、小松寺を建立したのが始まり。尾張四観音の一つに数えられます。玉照姫が荒れたお寺の観音像に笠をかぶせ、見初められて玉の輿に乗ったという伝説があります。

② 見晴台(みはらしだい)

見晴台遺跡は周辺より12mほど高くなった台地の縁に位置しています。この遺跡から昭和16年(1941年)頃から銅鐸型土製品が発見されて広く知られるようになり、地形がほぼ昔のまま残っている市内でも有数の遺跡です。特に弥生時代から古墳時代にかけての環濠(かんごう)集落(集落のまわりに大きな濠を巡らしたもの)という特徴があります。戦前この周辺には当時の日本の航空機生産の5割を占めた軍需工場や熱田神宮があったため、それらを守るために高射砲陣地が構築されました。

③ 笠寺一里塚

徳川幕府は、東海道をはじめ主要街道に一里塚を築きました。一里(約4km)ごとに土を盛って塚を築き、その上にエノキやマツの木が植えられました。
市内にはかつて9か所に一里塚があったと言われていますが、現存するのはこの「笠寺一里塚」だけです。かつては一對の塚で、道を隔てた南側に大正時代までムクノキが植えられていました。
土を盛った上に大きなエノキが根を張っています。春には水仙、秋には曼珠紗華が加わり、昔の東海道の面影を偲ばせています。



④ 東光院(とうこういん)

笠覆寺十二坊の一つとして創建されました。本堂は江戸中期に建立されました。
星崎城主山口重勝の所持品であった天満天神菅原道真の肖像画、別名「出世お神酒天神」が所蔵されています。また、宮本武蔵が南区に滞在した際に東光院で過ごしたという伝承が残っており、左右両腕で書き分けた「南無天満大自在天神」の掛軸、武蔵の「肖像画」、武蔵自作の「木刀」が所蔵されています。

宮本武蔵と南区

剣の達人・宮本武蔵の足跡をたどると、尾張城下、現在の南区に滞在していたこともあったようです。
東光院は、武蔵が宿坊にしたと伝えられており、笠覆寺(笠寺観音)には、武蔵の弟子によって建立された顕彰碑があります。宮本武蔵が尾張を訪れた時期は、巖流島の決闘から10年以上が過ぎた寛永7年(1630年)以降だといわれています。
当初、武蔵は將軍家の兵法指南役を目指しましたが、將軍家にはすでに柳生宗矩がいたこともあって志を果たせず、それなら尾張徳川家の兵法指南役を目指そうと尾張を訪れました。しかし、尾張でもやはり仕官はかないませんでした。

⑤ 泉増院(せんぞういん)

玉照姫の像が安置されているお寺。「玉照姫伝説」は古くから伝わっており、縁結びのご利益があるといわれ、若いカップルや女子高校生がお参りする姿も見られます。

玉照姫伝説

もと美濃国の豪族の娘玉照姫は、あまりの美しさゆえ不運な運命に巻き込まれ、鳴海の長者の召使いとなってしまいました。
不遇な生活を送りながらも、玉照姫は決して希望を捨てません。いつも呼続の里の街道わきにあった観音像にお祈りしていました。
ある雨の日、ずぶぬれになっていた観音像に自分の笠をかぶせてあげた玉照姫は、たまたま通りかかった藤原兼平に出会いました。
兼平は心優しい玉照姫を見初めてプロポーズ。めでたく二人は結婚し、京で幸せになったのでした。
その後、二人の出会った思い出の土地には、立派なお寺(現在の笠寺観音)が建てられ、笠をかぶった観音像が祀られたというわけです。

⑥ 富部神社(とべじんじゃ)

「蛇毒神社」「戸部天王」とも呼ばれます。慶長8年(1603年)、清洲城主松平忠吉が西方にあった祠を現在地に移し、慶長11年(1606年)に本殿、祭文殿、回廊、拜殿を建てたと伝えられています。
本殿は三間社流造、檜皮葺屋根(ひかわぶきやね)で、特に正面の臺股(かえるまた)、屋根の懸魚(げぎよ)や桁隠(けたかくし)は桃山様式で作られている国の重要文化財です。また、境内の山車蔵には、享保12年(1727年)作の「高砂山車」が保管されています(市指定有形民俗文化財)。神宮寺として天福寺をもち、百石の社領を有していました。尾張藩主の崇敬も厚かったと伝えられています。

⑦ 戸部新左衛門碑(とべしんざえもんひ)

戸部新左衛門政直は戦国時代に活躍した人物です。戸部城の城主でしたが、織田信長の計略にかかり、三河吉田(豊橋)で今川義元に殺害されました。
その霊を祀るため、城跡に碑が建てられましたが、後にこの場所に移されました。
戸部城は、「松本城」「笠寺城」とも呼ばれています。東西は約30m、南北約180mで、西側、南側は高さ十数メートルもある崖になっていました。
昭和4年(1929年)の耕地整理で削平されたため、現在は痕跡をとどめていません。